

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	28	大学等名	創価大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

#### <優れている点>

- ・本事業の取組と並行して、FD の着実な実施やピア・アセスメントスタッフの体制構築を展開されていることは、教育改善の最も根幹的な担い手の質向上が図られている点、また、補助期間終了後の本事業の成果担保という観点からも高く評価できる。さらに、アセスメント科目の設定により学修成果可視化を目指す試みも、カリキュラム改革全体へつながることが期待されることから、有効なアプローチであると評価できる。
- ・授業設計研修への教員の参加率がおしなべて高い。また、AL マスター制度を媒介項にして、教員へのアクティブ・ラーニング (AL) の浸透を図っていくことは、その資格獲得者の増加と活動が他の教員に見えやすいことから、現実的な成果が期待でき、評価できる。さらに、学生の自己肯定感の低さに対応したツール開発や、多くの大学で苦慮していると思われる「AL 型授業を苦手としている学生」向けに準備されている体験型の課外講座についても、高く注目・期待され、評価できる。
- ・教育成果の発信にはもとより積極的であり、FD 講師派遣の実績からも他大学の注目を集めているものと判断できる。これまでの FD・SD 実績や他大学との連携実績を勘案すれば、補助期間終了後の実質的継続も十分期待でき、評価できる。

#### <改善を要する点>

- ・任意の指標にある「優れたリーダーシップを持つ学生」とはどのような学生であり、どのように評価・認定されたのかを明示することが必要である。
- ・評価体制は整備されているが、評価の観点や、学修行動調査や学修到達度テストの結果が、新たな方針策定にどのように反映されたのか明らかにすることが必要である。